

徳島県総合計画審議会計画推進評価部会報告

第1回 計画推進評価部会

- 1 開催日時 平成21年7月9日(木) 15:00~17:00
- 2 「オンリーワン徳島行動計画(第二幕)の進捗状況について」いただいたご意見の概要

(1) 主要事業及び目標水準・数値目標の進捗状況について全般的なご意見

高速道路新料金など、昨年と今年では本当に劇的な変化をしていると感じており、この変化に的確に対応することが求められている。

各基本目標に関するご意見「オープンとくしま」の実現

(特になし)

「経済飛躍とくしま」の実現

ハローワークでは求職者が大勢おり、緊急雇用対策の雇用期間終了後の対策など、長期的な視点で就業率の向上に努めて欲しい。

農業や漁業が将来の徳島のベースになることを考えれば、新規就農者数や新規漁業就業者数の数値目標は引き上げて良いのではないかと。

徳島県への移住希望者や就農希望者は多いがマッチングが難しい。県と市町村の連携の中で何らかの施策が必要ではないかと。

第一次産業においては、「いかに現状を維持するか」という切羽詰まった状況であり、行政が消費者と農業との架け橋になって、農業に関する理解を深めるような情報発信をして欲しい。

「環境首都とくしま」の実現

(特になし)

「安全・安心とくしま」の実現

新型インフルエンザ対応や医療体制の問題、わかめの偽造問題対応など、「守り」の部分の評価し、危機管理の部分を確認しておく必要がある。

「まなびや、とくしま」の実現

大学生が赤ちゃんと触れ合うことができるような「大学内広場」を作れば、大学の人材が有効に活用できるし、母親達が先輩ママとして大学生にミルクの飲ませ方などを指導できるなど、面白い取り組みができると思う。

「みんなが、とくしま」の実現

乳幼児医療も充実し、子育て支援団体のネットワークも随分広がったと感じている。

「Go!Go!くっつき隊」は随分広報され、認知度も高まってきたが、協賛店舗であることをわかりやすく表示して欲しい。

「にぎわい、とくしま」の実現

徳島空港に新しくターミナルビルができるが、「便利が全て」ではなく、身の丈に合ったものとする視点も必要である。

徳島県はインターネットがつながりやすく、積極的に地域のICT整備を進めた成果であると感じる。

過疎地域におけるCATVサービスの提供市町村の割合が61.5%という実績だが、2011年の地デジ移行までに対応して欲しい。

県民のICT利活用能力の向上に資する人材育成を実施しているが、育成された人材を有効に活用して欲しい。

県南地域へのU・I・Jターンを進めるためには、雇用・住居・医療の問題を解決することが重要である。また、「魅力的な自然や人間」についてアピールしていくことが大切である。

観光を進めるための即効性のある施策を打ち出すのは難しい。観光の基本は農業であると実感しており、中山間地域をはじめ農業や漁業の維持の準備をしておき、将来の観光のチャンスに備えるという形が望ましいのではないかと。

(2) 個別事務事業の取り扱いについて

計画推進評価部会での議論をより深めるため、昨年度に実施した個別事務事業の評価について、今年度も実施することとした。

なお、全ての事務事業を見ることはできないので、『「オンリーワン行動計画（第二幕）」目標水準・数値目標 平成20年度進捗状況一覧表』から指標を10項目程度選んで、関連する事業について評価することし、議論の結果、次の10項目、関連する11事業について、8月7日に事業の評価を行うこととなった。

基本目標1「オープンとくしま」の実現

- 「県庁コールセンター」の設置
- ・県庁コールセンター設置運営事業

基本目標2「経済飛躍とくしま」の実現

漁業協同組合・商工業者連携ブランド協議会数

- ・踊る！とくしまブランド展開事業
- ・来て見て知って徳島のさかな事業

公共事業での県産木材使用量

- ・先駆的木造公共施設整備事業

基本目標3「環境首都とくしま」の実現

アイドリングストップ協力店の拡大

- ・環境監視事業

基本目標4「安全・安心とくしま」の実現

木造住宅耐震改修等への支援

- ・木造住宅耐震化促進事業

小児救急電話相談事業の実施

- ・小児救急医療総合対策事業

基本目標5「“まなびや” とくしま」の実現

「オンリーワンハイスクールパワーアップ事業」実施校数

- ・オンリーワンハイスクールパワーアップ事業

基本目標6「“みんなが” とくしま」の実現

「はぐくみ支援企業」認証件数

- ・はぐくみ支援企業推進事業

基本目標7「“にぎわい” とくしま」の実現

観光入り込み客数

- ・戦略的観光誘客推進事業

競技力向上のための中学・高校連携ゾーン数

- ・徳島型豊かなスポーツライフ推進事業

第2回 計画推進評価部会

1 開催日時 平成21年8月7日(金) 13:00~17:15

(1) 視察(13:00~15:00)

・徳島科学技術高等学校

(2) 会議(15:10~17:15)

2 「オンリーワン徳島行動計画(第二幕)」目標水準・数値目標に係る個別事務事業の評価について

7月9日の第1回計画推進評価部会で選定した項目に、次の1項目を追加して、個別事務事業評価を実施することとした。

基本目標5「まなびや、とくしま」の実現

地産地消協力店数

・とくしまの食と農を守る地産地消推進事業

各事業ごとにいただいたご意見

県庁コールセンター設置運営事業

民間オペレーターが県庁の仕事を十分把握して、県民からの問い合わせに責任を持って対応できるよう取り組んで欲しい。

踊る!とくしまブランド展開事業

来て見て知って徳島のさかな事業

「とくしまブランド協力店」のメリットを打ち出すことが必要。県のホームページで店舗名を情報発信するのも良いのではないか。

先駆的木造公共施設整備事業

公共性の高い施設には、もっと木材を使用して欲しい。徳島科学技術高校も、腰板の部分に木材が使用されていたが、全体的に無機質な印象を受けた。

環境監視事業

アイドリングストップ協力店の拡大という環境に配慮した取り組みと、車で来県する観光客を増やそうという取り組みは矛盾しないのか。

木造住宅耐震化促進事業

ローラー作戦的な啓発を実施しているが、耐震診断をしても耐震改修につながる件数が少ない。例えば、寝室だけの改修など、耐震改修をもっと促進できないか。

税金控除もあるが、具体的な金額で説明しにくい面があるので、相手にわかりやすくアピールできるような工夫が必要である。

小児救急医療総合対策事業

小児救急医療体制が充実し、安心して子育てができるようになった。

活動指標の「相談件数」が増えて、成果指標の「小児の時間外患者数」が減っているが、コンビニ受診が減ったのであれば良いことである。

オンリーワンハイスクールパワーアップ事業

オンリーワンハイスクールの取り組みは、非常に良いプログラムであるので、できるだけ多くの学校で取り組んで欲しい。

徳島科学技術高校では、素晴らしい機器が揃っているので、地域に公開するなど有効に活用して欲しい。

農業高校に対する支援も必要である。

とくしまの食と農を守る地産地消推進事業

地産地消の事業が、基本目標5「“まなびや”とくしま」に位置付けられていることに違和感がある。基本目標2「経済飛躍とくしま」でもいいのではないか。

消費拡大のためには、食育の推進が必要である。米の消費拡大を推進するためにも、地産地消月間中の協賛事業には、米粉を使った事業を入れて欲しい。

地元の農産物を利用するためには、安定的に供給できること、価格が安定していることが望ましい。ブランド化を推進するためにも、地場農産物の供給や価格に関する情報を早めに発信して欲しい。

徳島県には良い農産物がある、ということを消費者に知ってもらう必要がある。

はぐくみ支援企業推進事業

はぐくみ支援企業として表彰された後の施策も必要ではないか。

戦略的観光誘客推進事業

マスメディアを積極的に活用することだが、マスメディアだけでなく、インターネットの活用や、顧客から情報発信してもらうなど、クロスメディアの考え方が必要である。

H19の県外観光客数は、国文祭もあり、727万人という実績となっている。H22の目標が倍増の1,450万人というのは、高速道路新料金を見込んでのことだと思うが、達成は難しいのではないか。

外国人誘客を促進するためには、受け入れ体制の整備が必要である。

今夏は、四国88ヶ所の札所参りの人数が激減していると聞いたので、要因を把握しておくことが必要である。

徳島型豊かなスポーツライフ推進事業

総合型地域スポーツクラブ間の連携を図るための連絡協議会を設置するなら、この事業を(財)徳島県スポーツ振興財団に委託するのではなく、連絡協議会に委託してもいいのではないか。